

第4回札幌圏域地域医療構想調整会議議事録（要旨）

○日時 平成29年2月27日（月）19：15～20：30

○場所 WEST19 5階講堂

○出席者

[委員]

| | | |
|---------------|----------------------|-----------|
| 札幌市医師会 | 会長 | 松家 治道（議長） |
| // | 副会長 | 今 真人 |
| 北広島医師会 | 会長 | 鈴木 勝美 |
| 札幌歯科医師会 | 会長 | 山田 尚 |
| 千歳歯科医師会 | 副会長 | 真鍋 淳 |
| 札幌薬剤師会 | 会長 | 柳瀬 義博 |
| 北海道看護協会札幌第2支部 | 支部長 | 本川 奈穂美 |
| // 札幌第3支部 | 支部長 | 大橋 由美子 |
| // 札幌第4支部 | 支部長 | 本間 美恵 |
| 北海道歯科衛生士会札幌支部 | 副支部長 | 天道 紀子 |
| 全国健康保険協会北海道支部 | 業務部長 | 國本 要 |
| | （代理 業務改革・サービス推進グループ長 | 梅津 竜） |
| 北海道病院協会 | 副理事長 | 田中 繁道 |
| // | 常務理事 | 中川 翼 |
| 北海道精神科病院協会 | 副会長 | 松原 良次 |
| COML 札幌患者塾 | 代表 | 中田 ゆう子 |
| 江別市社会福祉協議会 | 常務理事兼事務局長 | 中川 雅志 |
| 恵庭市社会福祉協議会 | 事務局長 | 中田 初雄 |
| | （代理 介護サービス課長 | 海老 厚志） |
| 札幌市 | 副市長 | 板垣 昭彦 |
| | （代理 保健福祉局医務監 | 館石 宗隆） |
| 江別市 | 市長 | 三好 昇 |
| 千歳市 | 市長 | 山口 幸太郎 |
| | （代理 副市長 | 横田 隆一） |
| 恵庭市 | 市長 | 原田 裕 |
| | （代理 保健福祉部長 | 船田 清） |
| 北広島市 | 市長 | 上野 正三 |
| | （代理 副市長 | 道塚 美彦） |
| 石狩市 | 市長 | 田岡 克介 |
| | （代理 副市長 | 白井 俊） |
| 当別町 | 町長 | 宮司 正毅 |
| | （代理 福祉部長 | 高取 真由美） |
| 新篠津村 | 村長 | 東出 輝一 |
| | （代理 住民課長 | 松村 修） |

[事務局]

| | | |
|-----------------|----------|--------|
| 北海道石狩振興局 | 保健環境部長 | 一色 学 |
| // 保健環境部保健行政室 | 室長 | 大沼 剛 |
| // 企画総務課 | 課長 | 松岡 宏昌 |
| // | 企画主幹 | 畠山 聡仁 |
| // | 地域医療薬務係長 | 栗原 安成 |
| // | 主任 | 竹谷 絵美子 |
| // | 薬剤師 | 毛木 菜摘 |
| // 保健環境部千歳地域保健室 | 室長 | 廣田 洋子 |
| // | 次長 | 平野 孝三 |
| // 企画総務課 | 課長 | 大塚 恭司 |
| // | 企画主幹 | 植野 聡 |
| // | 地域医療薬務係長 | 川村 久仁浩 |
| // 保健環境部社会福祉課 | 主幹 | 藤田 肇和 |

| | | | |
|----|-----------------|------------|-------|
| // | 地域政策部地域政策課 | 市町村係長 | 志齊 司 |
| | 北海道保健福祉部地域医療推進局 | 地域医療構想担当局長 | 大竹 雄二 |
| // | 地域医療課 | 主幹 | 鈴木 英樹 |
| | // | 主査 | 夕下 司 |
| | // | 主任 | 水本 淳 |

○会議内容

開会

- ・出席状況報告、資料確認等（事務局）

- ・第4回地域医療構想調整会議について（事務局）

本日は、昨年12月に策定された、北海道地域医療構想について概要を説明する。

次に、調整会議に専門部会を設置することについて、先に委員皆様からいただいた御意見を整理した内容と、今後の進め方について事務局から説明し、委員皆様に御議論をお願いする。

議事

- 1 北海道医療計画〔改訂版〕（別冊）－北海道地域医療構想－ について
資料1「北海道地域医療構想の概要」
資料により事務局から説明

議長

ありがとうございました。ただいまの説明に御意見、御質問がありますでしょうか。

札幌圏域で作ったものと、他の圏域をまとめて北海道医療構想になったと思うのですが、構想ですからこれからどうなっていくかわからない事もあります。

田中先生、この13ページの、手稲区の地域病床連携会議、これはどうでしたか。

田中委員（病院協会）

北海道病院協会を代表して参加していますが、手稲地区の連携の話をさせていただきません。この「手稲地区地域病床連携会議」は、「地域が一つの病院のように柔軟に病床を活用できるような関係」作りのために、「各施設の空床状況を把握」する目的で平成26年6月に設立しました。27年11月にシンポジウムを開催し、会議体としての方向性を確認しました。この組織には、「地域連携事務会議」という下部組織として2か月に1回の事務部門による実務的な会議も開催しています。当初の空床状況報告は紙ベースでしたが、昨年からはWebを活用し、空床情報を少なくとも1日に1回以上更新することにしました。パソコンやスマートフォンで情報共有・交換ができるようになり、今後の進展が期待できます。他にも手稲地区から発信した連携体制はたくさんあります。ID-LINKを活用した連携システム（TMNIT in Hokkaido）、手稲区三師会（医師会、歯科医師会、薬剤師会）、看護部長を中心に拡大してきた看護師連携の会（ナースっくる：手稲区、西区、北区、小樽、後志など）などです。いずれも、地域医療構想や地域包括ケアシステムを睨んだものです。

議長

ありがとうございました。どなたか御意見とか、こんなことを知っているとかありますでしょうか。特にありませんか。この件はよろしいでしょうか。

ありがとうございました。

2 札幌圏域地域医療構想調整会議に設置する専門部会について

- (1)各委員を対象に実施した「部会等の設置・運営に関する調査」の結果について
資料2「部会等の設置・運営に関する調査結果」
資料により事務局から説明

- ・1の設置形態では、医療（在宅医療）と介護の連携（多職種連携）に関する部会等の設置が最も多く16件

- 次に、病院・診療所による「医療部会等」の設置が9件
- ・2の構成メンバーについては、協議内容に応じて調整会議の構成員以外も加えるが17件
 - ・3のその他意見として、3エリア単位での部会の設置に関するものとして、通勤・通学、買い物といった生活圏や、通院・入院患者の状況等、地域の実情を勘案する必要があるのではないかとといった意見が2件、検討項目によっては地域横断的な場の設置が必要ではないかとの意見が1件あった。

(2)今後の進め方について
資料等により事務局から説明

- ・部会の設置等は、「札幌」「江別」「千歳」の3エリア単位で進める
- ・各エリアでの部会の進め方

(札幌エリア)

資料3「今後の札幌区域における地域医療構想の進め方について」

この札幌区域全体をどう進めていくのかということですが、まず一つ目の〇にあるとおり、札幌区域については、これまでの調整会議などの議論を踏まえて、定期的に札幌区域、この調整会議を全体で開催しつつ、併せて地域ごとの議論、これは札幌市のエリア、江別保健所のエリア、千歳保健所エリアいうこの3エリアに分かれておりますが、地域ごとの議論を併せて行うということを考えています。

まず、札幌市についての進め方を説明します。本来であれば、この調整会議というのは顔が見える単位で議論するのが望ましいだろうと考えています。札幌市は医療機関の数も多いということがあります。人口も面積も広いということがありますので、なかなか市という単位よりも小さい単位で細分化するというのは難しいのではないかと思います。それらの状況を踏まえて、札幌市全域というものを単位として、何か調整するということは難しいかもしれないですが、定期的な会合であったり、説明会というものを開催することで、様々なデータ、例えば病床機能報告の状況であったり、受療動向そういったデータ等、情報の共有ということを行うことが大事だと、そして、そういう情報を基に札幌市内の各医療機関の方々に自主的な取組を行っていただくということが大事であるというふうに考えているところです。札幌市全域を単位とした定期的な会合、説明会を開催していくということですが、会合というものにつきましては、既存のものがあればそれを使っていくことが望ましいだろうということになります。そう考えますと、札幌市で独自に医療計画を今、作られようとしているということです。

その中で当然、地域医療の連携体制の構築ということも、札幌市の医療計画に入っています。地域医療構想と重なる部分がある、要旨として一致するところがあるだろうということがあります。そういう場を使って、そういう場を全体的な定期的な会合ということにしてはどうかというように考えています。これを原則としつつ、三つ目の〇にありますけれども、田中先生の方からも御紹介いただきましたけれども、例えば手稲地区のような、もう少し細かい顔が見える単位での議論をしたいという地域があれば、それは支援をしていこうということでありまして、下線が引いてありますけれども、より小さい単位での情報交換を希望するところがあれば、それは既存の場の活用を含めて検討した上で、場の設定を支援していこうということです。支援の内容としては、費用的なこととなります、会議の会場の費用であったり、資料の印刷費用であったり、そういったものの支援というものを、委託してお願いするということを考えていて、そういった設定を支援するということです。この小さい単位での議論というのは、あくまでも議論というよりは情報の共有を行うことと思っております、病床数をどうするということではありません、いかに実質的な連携体制を作っていくか、役割分担をしていくかということに関する情報交換、情報共有ということが目的だろうということです。括弧書きで書いてありますけれども、あくまでも一般的な役割分担とか連携を議論するということであって、具体的な病床数を議論することではないということになるかと思えます。最後に「また～」と書いてありますが、それぞれ各単位で色々な会議がありますので、そういったものを極力活用していただくということで考えています。

(江別エリア)

続きまして、江別エリアです。江別市、石狩市、当別町、新篠津村による、江別エリアですけれども、ここでは意向調査で意見の多かった設置形態である「医療と介護の連携部会」それと「医療機関等の部会」、この2つを置くこととして、進めて行きたいということを御提案したいと思います。

「地域包括ケアシステム」の構築におきまして、在宅医療と介護の連携を強めるため、介護保険制度の地域支援事業において平成27年度から「在宅医療・介護連携推進事業」が実施されているところです。この事業では平成30年度からは、8事業すべての実施が義務化されており各市町村の取組が今後重要となっています。市町村における取組が円滑に行われるよう、「医療と介護の連携部会」により、地域の課題について検討していくことができたらと考えています。

「医療と介護の連携部会」のイメージとしましては、まずはエリア内の市町村、医師会、医療機関、それと関係団体で構成し、部会のメンバーは、市町村であれば担当の課長・係長、医師会、関係団体の事務局長といった実務者レベルで構成しまして、内容は、まずは、情報の共有、情報交換、勉強会のようなかたちでスタートするといったイメージです。

「医療機関等の部会」につきましては、これも、まずは、情報提供や情報交換がメインというふうに考えており、詳細については、江別管内の医師会などと協議してから作業を進めて行きたいと考えています。

先ほどの意向調査の結果の中で、地域の実情を踏まえてのエリアという意見もありましたが、まずは、札幌、江別、千歳、この3つのエリアで部会を立ち上げて、協議を進めるなかで、検討項目によっては、エリアの一部見直しも、検討しながら取り組んでいきたいと考えていますので、御理解と御協力をお願いします。

(千歳エリア)

千歳エリアでも江別エリアと同様に「医療と介護の連携に関する部会」と「医療機関等の部会」を設置したいと考えています。

まず、「医療と介護の連携に関する部会」です。千歳では、在宅医療と介護の連携を深めるために、平成26年より、医師会、歯科医師会をはじめとする医療関係の団体と介護の関係の団体の多職種の関係団体からなる「千歳地域在宅医療多職種連携協議会」を設置して、情報交換や研修会等を行ってきたところです。

こうしたことから、この多職種連携協議会に「医療と介護の連携に関する部会」の機能を担っていただく予定です。

また、「医療機関等の部会」については、管内の3医師会と協議した上で、江別エリアと同様に情報提供と情報交換をメインに作業を進めて行きたいと考えています。

議長

ありがとうございました、意向調査の結果と部会の設置について説明がありました。ただ今の説明について、何か御質問ありますか。

今委員（札幌市医師会）

資料3の中ほどの※印についてお伺いします。「会合については、札幌市版医療計画策定に向けた議論の場（「(仮称) さっぽろ未来医療プラン策定専門委員会」を想定）」と書いてありますが、札幌市に内諾を得ての記載でしょうか。

事務局

事務的にはお話をさせていただいておりますが、そこは委員会としての意向は当然あると思いますので、道というか我々としては、そういう想定をしているということで記載しています。

今委員（札幌市医師会）

札幌保健所の委員会については御存じでいらっしゃると思いますが、札幌市保健所運営協議会の専門委員会として札幌市に依頼を受けた策定専門委員会が設定され、諮問を受けて、答申をするという造りになってはいますが、その目的ですね、諮問理由としまして、北海道において策定している地域医療構想を踏まえて、将来あるべき医療体制の構築に向けた

課題の提供、環境の変化に基づくあらゆる課題に対する施策を関与した計画する必要があると。医療構想を踏まえて札幌市としても独自のものをつくっていかうという考えでありまして、調整会議のように各医療機関に説明をして回るとか、定期的な会合を開いて説明会を開催するというのは、要綱としては反しているのではないかと考えています。ですから、それであれば、未来医療プランの専門委員会を要綱から作り直していかないといけないと思いますので、委員会として判断していただければと思います。

議長

札幌市の委員会としてですね。

今委員（札幌市医師会）

性格が違うのではないかと考えています。

議長

札幌市としてはいかがですか。

館石代理（札幌市）

道の方から相談を受けた段階では、そういう役割を持つことも一つありうるかなと考えていましたが、いずれにしても先生方からの御指摘を含めて、今後どういう形でこの委員会に役割を持たせていくかは、医師会はじめ関係団体と相談しながら考えて結論を出していきたいと考えています。

議長

性格が違うので少し進め方を検討した方がいいのではないかと、ということでしょうか。ほかに何かありますか。

中川委員（病院協会）

私はあまり熱心に在宅医療をやっているというわけではないのですが、各区では在宅ケア連絡会をかなり熱心にやっていて、情報交換等をしていることを認知しています。

私は南区ですが、南区でも月に1回か2カ月に1回くらいは区民センターを使って、在宅ケア連絡会をやっていますし、時々パネルディスカッションなどをやったりしているようです。それとここで考えている、資料3に書いてある内容と、どのようにドッキングされるのか、そこに行政も関わっていくのか、どういう援助をするのか、その辺の関わりについて、少し教えていただければと思います。

事務局

ありがとうございます、医療介護連携にしても、地域医療との連携にしても、今お聞きしたとおり、もともと自主的に取り組まれていたり、あるいは介護保険の枠組みの中で取り組みがされていることがあると思いますので、それらの取組を、無理やり地域医療構想の枠組みにあてはめる必要はないと考えておきまして、自主的な取組であったり、介護保険の枠組みは、それはそれで進めていただくということ、それをある意味、中身、内容として医療構想の中身のエッセンスを進めていく体制になっていけばよいと考えております。

中川委員（病院協会）

独自にやって、協力すべきところは協力していくということよろしいんでしょうか。

事務局

医療連携にしても医療介護連携にしても、何か全然できていないといったような何か課題があれば、こういう場でお話することもあると思いますが、基本的には各自治体なり各医療機関の取組がまず第一だということ考えています。

議長

それぞれ勝手にやってくれということみたいですね。

ほかに御質問、御意見ありますか。

三好委員（江別市）

質問なのですが、江別エリアの場合についてですが、千歳、江別、札幌と3つのエリアに分かれてということでしたけれども、江別エリアに石狩市も一緒に入るのでしょうか。

皆様もご存じのとおり、石狩市は多分、田中先生の方が近くてですね、医療の中にはずっとそちらに通っているわけですから、江別と石狩と一緒に議論しても、いろいろな今までのつながりや地理的条件からいきましたら、非常に無理があるのではないかと思います、その辺是非考慮していただきたいと思っておりますけれど。

事務局

石狩の医師会と石狩市役所からも同様の意見をいただいています。

ただ、取り敢えずスタートとしては、札幌市の状況を踏まえた上で、まず江別エリアということで、情報交換・勉強会といった形で意見交換し合う中で、そうしたエリアを越えた話が当然今後出てくることが想定されますので、そういったときは調整会議での協議の中で、少しずつ進めていきたいと考えています。

まずスタートの段階としては、取り敢えず江別エリアということで、話し合いをスタートさせたいということです。

石狩市と手稲区、北区との医療の関係については、住民相互に、札幌市手稲区・北区の住民が石狩市に受療したり、石狩市の住民が札幌市の医療機関を受療しているといった実態は考慮した上で、まずは江別エリアからスタートしたいと考えております。

三好委員（江別市）

しつこいようですが、医療関係者同士のコミュニティといいますか、連携を図ろうという思いがあったとしても、どこと患者が連携していて、既にドクターとも連携してるところがあるかと言いますと、今現状で連携されているところが一番ベターではないかなと思います。

取り敢えずという形ではなくても、最初からそういう形が明らかであれば、やはりそういう形で、今の形を認める様な、実際の動きを認める様な形で始められた方が、私はより中身の濃い議論ができるのではないかなと思います。

議長

いかがですか、このエリアが実態にそぐわないということに関して、他のエリアではそういうことはないんですか。例えば、石狩市と札幌市は非常に行き来がありますけれども、他のエリアでも、私のエリアはこっちだけれども、あちらのエリアに行きたいという意見は全然ありませんか。

結局、原則論に沿って、そこから会議をスタートしていかないと、皆が私はこっちだ、あっちだと言った時に上手くいかないのかなというのはあるんですよ。

札幌市としては、石狩医師会や江別医師会と情報共有して、何かあった時に御案内を出すのは全然問題ないんですけど、ルールとしてどうなのかなというところがありまして、いかがですか。

事務局

例えば千歳エリアでも、北広島市は比較的、市民の方は札幌の医療機関に行かれることが多いと思うんですけども、そういう点は札幌圏ということで、共通の問題でいろいろ深めていくことがあろうと思いますので、まず取り敢えずは千歳エリアで話し合いを持っていきたいと考えています。

それは、全道的に見ていけばいろいろあると思うんですが、差し当たっての圏域は第二次医療圏ということになっていますので、今、江別市長さんの言われたことも判りますが、そういうことも考慮しながら進めていきたいというふうに思います。

議長

いかがですが、今のお話しでよろしいですか。

また、何かあれば直ぐに変えていくというか、柔軟に対応するというので、よろしいでしょうか。

他に何か御意見ありますでしょうか。

山田委員（札幌歯科医師会）

確認なんですけれど、資料3の札幌市の〇の3つ目に具体的にと書かれているんですが、支援するのはこの場合に限るということではないんですよね。あくまでも具体例として挙げただけなんですよ。

事務局

趣旨は、同じ区の中であっちもこっちも出てきたら困るという話なので、基本的に医師会がある意味統一的に情報を集めるという意味で書いていますので、趣旨としてはこのケースが基本になると思っています。

山田委員（札幌歯科医師会）

例えば歯科医師会からいろいろ何かやりたいという場合は、医師会を通してやってほしいということによろしいですか。

事務局

そうですね。医師会と相談いただければと思います。

議長

よろしいですか。他に。

田中委員（病院協会）

確認なんですけれど、資料3の札幌区域における進め方の中で、「会合」という表現をしているんですけれど、会合のメンバーの決め方と会合の位置づけですね、調整会議と会合との位置づけといいますか、「情報共有を行うことで、役割分担を議論するものであって、具体的な病床数を議論するものではない」とありますけども、それと調整会議との関係がわからないのと、メンバーをどう決めるのかというのがこの書き方だと定かでないと思うんですが、いかがでしょうか、教えていただければと思います。

事務局

札幌市全体の会合は、さきほど御意見いただきましたけれども、我々としてはこの委員会を想定しているという話になりますけれども、区単位の会合という話となりますと、それはまさに区としてどう考えるかという話になりますので、そのメンバーも我々の方で、こういう人を入れてくれとか、こういう人がいないとダメとか申し上げるつもりはなくて、区としてこういう話で進めたいということで考えていただければと思いますので、例えば、ちょっと隣の区の人が関わりが深いから入ってくるということでもかまいませんし、それは、そういうことも含めて、各区というか、小さい単位で決めていただければというように考えています。

田中委員（病院協会）

区単位というのはそれなりに判るんですが、最初に書いてある「札幌市内については、市単位よりもさらに小さな単位に細分化することは困難であるため、札幌市全域を単位として」というのは、ちょっと僕には引っかかるというか。

さっぽろ未来医療プラン策定専門委員会を想定と書いてあるんですが、ここのメンバーで札幌市全体の議論を進めるという形で理解していいんでしょうか。それだとちょっと納得できない面があるんですけど。

事務局

基本的には我々としては委員会を想定している。

つまり、調整会議は具体的な病床の調整する場ではなく、あくまでも政策的な、札幌市全域の医療介護連携だとか、医療連携を議論するという意味では、この場が適当だと思いますし、ある意味、代表している人が集まっていることかと思しますので、この場を使うと。

後は、これ以外に医療機関を対象とした説明会というものを開催して、構想の調整状況とか議論の状況というものを情報提供させていただくという、ある意味2本立てのような形で考えています。

田中委員（病院協会）

それだと、ここで、専門委員会のメンバーを知らないのに、調整会議のメンバーとしてOK出すわけにはいかない。

どういう組織のメンバーが入っていて、どういう会議をやってるか、先ほど今先生も話してましたけど、どういう内容を議論しているかを知らないで、わかりましたそれでやってくださいと言うわけにはいかないんです。

一応、札幌市内の病院団体の委員として会議に出て来ている以上は、そこは実態を明らかにしていただかないと。

議長

いかがでしょう、やはり別の組織を作った方が良いのかなとも思いますけど。

医療介護の連携というのは、札幌市は進んでいるですけど、病院関係や病床関係はちょっと違うんじゃないか、未来医療プラン策定専門委員会とは違うんじゃないかと思うんですが、いかがでしょうか。

館石代理（札幌市）

いずれにしても、方針として完全に決めたわけではありませんので、具体的に今後検討して行くに当たって、こういう方々の参画が必要だということが、より具体的に明らかになっていって、それを比べてみたら、今、道の方から説明がありましたけれど、さっぼろ未来医療プラン策定専門委員会のメンバーと非常に重なりが大きいということになれば、二つの役割を担ってもらおうかと、段階を踏んで検討していてもよろしいかなと思います。

いずれにしても、今ここで結論を出すことは必ずしも必要は無いかと思しますので、そういうことが明らかになった時点で、どうするかということを改めてご相談することは可能かと思えます。

事務局

我々の認識としては、札幌で医療機関の代表の方が議論するとなった場合にですね、なかなか20人30人集まっていたいただいても代表性は担保できないだろうということで、札幌市全体で医療機関同士が調整する、顔の見える単位で議論するという場を設定する事はちょっと難しいんじゃないかと考えています。

あくまでも政策的な議論をするという意味で、医師会であったり、病院代表であったり、医療関係団体、患者代表の方に入ってもらった会議で、大きい方向性を議論してもらう、医療計画を含めてこの地域医療構想について、そのエッセンスを議論してもらう場としては、こういった場が考えられるのではないかと、そういったことで想定したという形になります。

議長

札幌市もそういう考え方でやっていくということですね。内容については。

田中委員（病院協会）

しつこいようですけれども、北海道病院協会の代表、病院団体を代表して出席して団体に報告しなくてはならないんですけど、札幌市内の地域医療構想の進め方については、僕はもう預けてきましたと報告するのは、僕は代表者としてはちょっとできない。

中身の実態が判っていればまだ良いのですが、中身が判らないのに、「そう言われたので、それでOK出してきました」と病院協会の理事会で報告できないと思います。

事務局

御指摘の話を各医療機関がどう考えるかということもあると思いますので、我々としては来月に札幌市内の医療機関を対象に説明会のようなものができればと考えておりまして、そういったところに出てきた意見を踏まえて、検討していくということが可能なのかと思っています。

田中委員（病院協会）

一点だけ約束してください。病院協会の代表者を必ず札幌市のこの会合には入れていただけると、僕でなくていいんですけど誰かを、病院協会から代表者を出していただく。

議長

入ってますね。

田中委員（病院協会）

入ってるんですか、徳田先生か誰かが。

議長

徳田先生が入ってます。

田中委員（病院協会）

それなら結構ですけど、すみません。

議長

一応、例えばですから、これでやってみて何か不都合があったら、考えていくということだと思いますけれど。

横田代理（千歳市）

いろいろ当初からお話しをさせていただきました地域の実情を考慮していただき、専門部会設置ということは有り難いなと思っておりますが、今後の進め方のところで、千歳エリアについては千歳保健所からお話ししていただいたんですが、例えば多職種の連携会議だとか、医療機関については医師会というようなことは、たまたま想定しているというか、同じような話になるんですけども、そういう組織がいくつも乱立するということは必要ないかと思うんですけども、今いわれたような組織を検討の場というか、情報交換の場と今のところ想定しているということでの説明でよろしいんですよ。

事務局

また改めて、こういうようにするという時には、市の方にもご相談させていただきたいと思っております。

ただ、多職種連携の協議会で、今後、医療と介護の連携に関する部会ということではないのですが、そういうものに移行するという話は、今年度お話ししております、基金を使うということで、了解を得ておりますけど、専門部会の話は、今ここで出たものですので、改めてご相談したいと思っております。

横田代理（千歳市）

最終的にこの調整会議の場で、専門部会で話したことを、どうゆうような関わりを持って、例えばこれから年1回やられるのか、ちょっとそこ辺のこれからの考え方というのが、いまひとつ判らないんですけども。

議長

専門部会は決めるところではないですよ。

部会で皆で話し合うことを、各地域の部会に出していただいて、それを皆で話し合っ、より良い方向に持っていくだけであって、部会で何かを決めていくという事ではないと思っております。

病床数を決めてくるとか、そういうところではない。

その地域でどうやったら上手くいくかという、そういう話し合いの場だと考えていただければ、全体的な札幌圏域については、この調整会議で決めるということになると思うんです。

ですから、その専門部会の委員の方達も、エリアで決めていいんじゃないでしょうか。市の方も入っていいですし、医師会も入っていいですし、いろいろな方が入って、そこでまず協議が進むようにしていく、医療介護の連携が進む、地域を支える方となると福祉の方も入らないといけないですか、そういう会議で問題ないと思うんですけど。

横田代理（千歳市）

はい、ありがとうございました。

議長

それでは今日の議論の内容を踏まえて、事務局で部会設置について整理を進めていただきたいと思います。

決して強制的にやらないことが重要だと思います。

それでは、次に「議題の3その他」ですが、何かありますでしょうか。

事務局

特にありません。

議長

全体を通して何かありますでしょうか。

中川委員（病院協会）

この会議は今後どういう形になるのでしょうか。今日で消滅するのでしょうか。それとも、今後も継続して年に1、2回開催されるのでしょうか。

議長

厚生労働省は年に3回と言っていますが、そんなにできないと思うんですよね。

中川委員（病院協会）

少なくとも年に2回はあるんですか。

議長

37年までPDCAをすることになってますから、今後も会議は開催します。

中川委員（病院協会）

専門部会ができて、その報告は必ずここに上がってくるんですね。

議長

そうしないとダメだと思っています。

札幌圏域の会議ですから、専門部会で話し合ったものを調整会議に全部上げてもらって、それを踏まえて話し合いをしたいと思っています。

他にありますか。

それでは事務局に進行をお返しします。

事務局

いろいろありがとうございました。

これもちまして、第4回札幌圏域地域医療構想調整会議を終了させていただきます。

閉会